

ツケラレテ

栗山
井口

舞台上、幅20〜30センチのパネルがある程度の数、不規則に立っている

客入れ

照明、ゆくつりと暗転

音響、雑踏

照明、舞台全体を照らす

音楽

栗山、登場

颯爽と、パネルを縫うように歩く

照明、様々な色に変化（水色→緑→黄→オレンジ）

ある程度歩き、退場

照明、暗転

照明、舞台全体

井口、登場

何かを調べている様子で、パネルを縫うように歩く

照明、様々な色に変化（濃青→白→紫→赤）

ある程度歩き、退場

照明、暗転

照明、舞台全体

栗山、登場

颯爽とパネルを縫うように歩く

井口、登場

栗山を尾行するように歩く

栗山、携帯着信

歩きながら

栗山 もしもし。

はい、お疲れ。

どした。

::

マジで。::マジか。

うん。じゃあ、とりあえず、俺からも向こうに連絡してみるよ。

そうだな、...5時位には戻れるから、そこから、明日以降の打ち合わせしよう。

ま、何とかなるだろ。何とかするしかないし。

大丈夫、大丈夫。

向こうがそう言っただから、そうするしかないし。

まあ、とりあえず、俺連絡入れとくから。

必要そうな書類、集めといて。

じゃあ、後ほど、はい、お疲れ。

携帯での会話終了

栗山 マジか。

しばらく歩く

井口、栗山を尾行するように

栗山、ベンチに座る

井口、ある程度距離を取ったところで待機

栗山、鞆から書類を取り出し、見て、携帯で電話する

栗山 あ、もしもし、栗山興業の栗山です。

お世話になっております。

工藤課長をお願いしたいんですけど

::

あ、そうですか。

何時くらいに戻れますか。

栗山、井口の存在に気付く

栗山 ::

え。あ、そうですか。

それじゃあ、戻り次第で構わないので、折り返しいただきたいんですけど、

大丈夫です。何時でも構いません。

何時でも構わないので、私の携帯まで。

お願いします。

あ、あの、すみません、課長の明日の予定は。

::

そうですか。

わかりました。

ありがとうございます。

携帯での会話終了

栗山、井口の方を気にする

井口、ぎこちなく、関係ない素振り

栗山 ::

栗山、歩き出す

井口、尾行する

栗山 ::

栗山、井口の尾行に気付き、スピードに変化をつけて、撒くような行動

井口、栗山の変化にぎこちなく対応しながら、尾行を続ける

ちやうど良いところで、栗山、踵を返し、井口と正対する

井口 ::

栗山 お前さ、俺のこと尾けてるよな。

井口 ::

栗山 おい。

井口 いや、あの、気のせいじゃないですか。

栗山 は。

井口 いや、あの、俺、別に、あなたのこと尾けてないですよ。

栗山 嘘ついてんじやねえよ。

尾けてただろ。

気付いてたよ。

誰だお前。

井口 本当に尾けてないですつて。

栗山 誰なんだよ、お前。

目的は。

井口 いや、本当に尾けてないですつて。

栗山 尾けてたよ。

良いから、答えろつて。

もう分かってんだから。

誰なんだよ。
誰かに頼まれたのか。
目的は。

井口 ::
栗山 何なら、警察行くか。
井口 ::
栗山 わかった、じゃあ、警察行こう。

栗山、井口に詰め寄ろうとする

井口 ちょっと待ってください。
栗山 ::
井口 ::
栗山 いいよ、警察行こう。
井口 ちょっと待ってください。
栗山 ::
井口 別に俺、あなたに何もしてませんよ。
何もしてないから、警察に行つたとしても、どうにもなりませんよ。
だって、罪を犯したわけじゃないんですから。

栗山 お前、小賢しいな。
お前、今日一日、俺のこと尾けてただら。
たまたま、同じ方向に用があつたなんて通用しないぞ。
俺が、公園のベンチで電話してた時も、ちょっと離れたところで、俺を見てたし、歩き出したら、付いて来ただら。
尾行以外の何物でもないだら。
警察行こう。

井口 ちょっと待ってくださいよ。
栗山 何だよ。
良いよ、面倒くさい、俺も忙しいんだよ。
警察行つて、話しよう。

井口 待ってください。
聞いてください。

栗山 ::
井口 ::
栗山 何だよ。言いたいことあるなら、ちゃんと言えよ。

井口 はい。
栗山 ::
井口 はい。
えっと、あの、...
尾行させてください。

栗山 ・・
井口 尾行をさせてください。
栗山 はい。
井口 正式に、尾行をさせてください。
栗山 ちよつと待て。待て待て。
井口 お願いします。
栗山 だから、ちよつと待てつて。
井口 ・・
栗山 何言つてんだ お前。
井口 尾行をさせてください。
栗山 それは分かつてるよ。
井口 ・・
栗山 何でだよ。
 いやいやいや、それ以前に、良いつて言つと思つのか。
井口 だからお願いしてるわけで。
栗山 お願いすれば、良いつて言つと思つてるのか。
井口 駄目ですか。
栗山 当たり前だろ。
井口 迷惑は掛けないようにしますんで。
栗山 掛かつてるよ。
 既に掛かつてるよ。
井口 え。
栗山 当たり前だろ。
 すごく不快だよ。
 不快に思ふ時点で、迷惑だろ。
井口 ああ。
栗山 ・・
井口 ・・
栗山 お前は、俺に、尾行をさせてくださいいつて、言つた。
井口 言いました。
栗山 ・・
井口 ・・
栗山 何で。
井口 ・・
栗山 何で、お前は、俺を尾行するの。
 何のために、お前は、俺を尾行するの。
井口 ・・
栗山 ・・
井口 何となく。
栗山 何となく。

何となく。

何だそれ。

井口 特に目的はないです。

栗山 は。

井口 本当に、何となくです。

栗山 ちよつと待て。

じゃあ、俺じゃなくても良いつてことか。

井口 まあ、そうですね。

栗山 じゃあ、何で俺なんだよ。

井口 たまたまですかね。

栗山 待て待て待て。

おかしい。おかしい。

落ち着こう。俺、ちよつと落ち着こう。

井口、タバコを栗山に渡す

栗山 ああ、ありがとう。

栗山、タバコを吸う。

栗山 俺と同じタバコだ。

井口 俺、吸わないです。

栗山 じゃあ、何で持ってんだよ。

何なんだよ、お前は。

井口 軽くは調べたんで。

栗山 は。

井口 栗山さんのこと、一応は調べたんで。

栗山 待て待て待て。

井口 ∴

栗山 今何て言った。

井口 ∴趣味はお酒を飲むことです。

栗山 言つてねえよ。

井口、人懐っこい笑顔

栗山 和まねえよ。

こういう会話と、そういう笑顔で、和まないよ。

お前、今、俺のこと調べたつて言つたよな。

待つた。栗山つて言つたよな。

井口 栗山さんですよな。

栗山 栗山だよ。
井口 良かった。
栗山 で、調べた。
井口 はい。
栗山 何で。
井口 尾行しようと思ったんで。
栗山 :

栗山、ベンチを確認する。

栗山 ちょっと時間ある。
あるよな。俺次第だからな。
井口 まあ、そうですね。
栗山 ちょっと、あそこの公園で話そうか。
井口 はい。

井口、何かに隠れようとする

栗山 良いよ。
普通に後ろついて来いよ。
井口 はい。

栗山、ベンチに移動し、ベンチに座る
井口、強引に隣に座る

栗山 お前は立ってるよ。
井口 :

栗山、ベンチに座る。井口、近くに立つ。

栗山 少し落ち着いてきたよ。
井口 良かったです。
栗山 お前が言うなよ。
井口 すみません。
栗山 一回整理するよ。
井口 はい。
栗山 俺のことを尾行したいんだよな。
井口 はい。
栗山 尾行する理由は、特にないだよな。
井口 はい。

栗山 　　：
井口 　　ちよつと聞いて良いですか。
栗山 　　何。
井口 　　いつから、俺のこと気づいてたんですか。
栗山 　　1時間くらい前、俺が取引先の会社から出てきて、後輩から電話があつて、その後、公園のベンチで、俺、電話してたよな。
井口 　　はい。
栗山 　　その時だよ。やたら、ちらちらこっち見てたぞ。
井口 　　そうでした。
栗山 　　見てたよ。
井口 　　気になつて、そして、歩きはじめたら、お前付いてきたぞ。しかもかなり目立つて。
井口 　　目立つてましたか。
栗山 　　尾行経験は。
井口 　　ないです。
栗山 　　めつちや目立つてたよ。
井口 　　：
栗山 　　俺とお前つて、何か関係あるの。
井口 　　ないですね。
栗山 　　じゃあ、何で、俺を尾行しようと思つたんだよ。
井口 　　話せば長くなるんですけど、構いませんか。
栗山 　　構わないよ。
井口 　　今のままだと、気味悪すぎたぞ。
井口 　　それじゃあ。
井口 　　何から話せばいいのかな。
栗山 　　最初から話せよ。
井口 　　3ヶ月くらい前かな、ふと思つたんです。
井口 　　誰かを尾行してみようつて。
栗山 　　何で。
井口 　　ふと思つたんです。ふと。
栗山 　　：
井口 　　それで俺、街に出たんです。
栗山 　　：
井口 　　でも、あ、俺、尾行について何も知らない。
栗山 　　普通知らないよ。普通にしてればすることない。
井口 　　で、ジエック堂行つて、尾行マニュアルつて本を買つて。
栗山 　　そんなもの売つてるの。
井口 　　専門書のコーナーに。
栗山 　　それ、専門書か。
井口 　　まあ、専門つて言えば、専門家もしれないけど。
井口 　　で、次に、誰を尾行するかつて話ですよな。

栗山 違っただろ。

井口 1ヶ月位、駅前の公園ですつと、誰を尾行しようか見てたんです。
で、栗山さんを見つけたんです。
この人しかいないつて。

栗山 意味わかんねえよ。

井口 凄いいんちやと歩いてました。
毅然つて言葉は、こういうことを言うんだつて。

栗山 そんなことないよ。
普通だよ、俺は。

井口 いや、そんなことないですつて。
本当、他の人と違つてたんですよ。
身に纏つてるオーラつて言うんですか。
ピンと来たんです。
この人だ。この人を尾行するんだつて。

栗山 いや、でもさ、おかしいだろ。

井口 お願いします。
尾行させてください。
俺の卒論のためにも。

栗山 大学行つてんの。

井口 行つてないです。

栗山 なんなんだよ、お前は。
ちよいちよい無駄な嘘、ぶつ込んでくるな。
大学行つてないなら、卒論なんて関係ねえじゃねえかよ。

井口 自分からの卒業つて言うんですか。

栗山 死んでるよ。
自分から卒業したら、死んでるじゃねえかよ。

井口 お願いします。
尾行させてください。

栗山 待て待て待て。
え、何、本当に目的は無いの。

井口 ありません。
ただ、尾行という行為をしたいんです。
それ以上でも、それ以下でもありません。

栗山 尾行した結果、得た情報を、何かに使うとか。

井口 ないです。

栗山 それ、お前にとって、何の得があるんだ。
単なる時間の無駄じゃね。

井口 俺にとっては大事なんです。

栗山 ∴

井口 1週間だけで良いです。

迷惑はおかけしません。

栗山 当たり前だよ。

迷惑かかってたら、尾行失敗しやねえかよ。

井口 お願いします。

栗山 ……

井口 お願いします。

栗山 ……

井口 お願いします。

栗山 本当に迷惑かけないんだろな。

井口 かけません。

尾行ですから。

栗山 俺、今、忙しいんだよ。

井口 はあ。

栗山 いや、本当に。

だから、本当に、俺の邪魔になるようなことはするなよ。

井口 もちろんです。

ただ、後ろをこっそりと尾けるだけです。

栗山 後、お前、俺のことどれくらい調べた。

井口 え。

栗山 さっき言ってたろ。俺のこと調べたつて。

井口 ああ、家と、会社と、名前くらいですかね。

栗山 それだけ。

井口 それだけです。

栗山 タバコは。

俺の吸ってるタバコ知ってたじゃん。

井口 それは、コンビニで、毎朝買ってますよね。

栗山 ああ。

え、調べたのつて、本当にそれだけ。

井口 はい。

まあ、会社向かうルートとか、そういうのは分かってますけど。

栗山 まあ、そんなもんか。

連絡先は。

井口 え。

栗山 連絡先だよ。

1週間経ったら、これで綺麗さっぱり終わるつて、俺の前で宣言しろ。それ破ったら、訴えても良いつてことにしよう。

井口 はい。

栗山 1週間経ったら、連絡するから。

井口 あ、でも、常に後ろにいますよ。

栗山 俺にばれないようにやれよ。

井口 あ、はい。
栗山 ほら。
井口 あ、じゃあ、番号教えてください。掛けますんで。
栗山 なんでだよ。
何で俺の番号教えなきゃいけないんだよ。
番号出して、俺に見せろよ。

井口、携帯で番号をだして、栗山に見せる

栗山 名前は。
井口 え。
栗山 お前の名前だよ。
井口 おかしくないですか、俺の名前知ってるって。
栗山 最初から色々おかしいんだよ。
最早これは契約ごとだから、お前の名前知ってたって問題ないだろ。
井口 ∴井口です。
栗山 井口。
井口 はい。
栗山 で、基本的にどうするの。
井口 どうすると言おうと。
栗山 どの範囲で。
井口 基本、家から家までですかね。
栗山 家、会社には侵入するなよ。
井口 それはもちろん。
栗山 飲み屋も。
井口 飲み屋もですか。
それは、こつそり他のお客さんに紛れてとかは、
栗山 無理だろ。
井口 いや、でも、マニュアルも読んだし、
栗山 金銭的にだよ。
井口 あ、
栗山 基本、道路だけだよ。
で、明日からにしてくれないか。
井口 え、今日は。
栗山 俺はこれから会社に戻るけど、お前は別な方向に行ってくれ。
俺の中で混乱してる部分がある。しかし、俺はこれから会社に戻って、仕事をしなきゃいけないんだよ。しかも重要な仕事を。
自分のことに集中したいんだよ。
明日には、しつかり切り替えておくから、明日にしてくれないか。
井口 はあ。

栗山 絶対に、俺の邪魔をするなよ。

井口 はい。

栗山 絶対にだぞ。

井口 はい。

栗山 :

井口 絶対です。

栗山 じゃあ、お前、先帰れ。

井口 え。

栗山 いまいち信用できない。

お前、先帰れ。

井口 :

はい。

微妙な間

栗山 行けよ。

井口 はい。

あ、じゃあ、盗聴器付けさせてもらって良いですか。

栗山 駄目だよ。

確認してつけてたら、盗聴でもなんでもないだろう。

俺が気付かなかつたとしても、それは駄目だよ。

尾行だけだろう。

井口 冗談ですよ。

栗山 当たり前だよ。

もう、この現状が、俺にとっては、冗談みたいなものだよ。

井口 じゃあ、明日から。

栗山 ああ。

井口 絶対に迷惑をおかけしません。

栗山 そうしてくれ。

願わくば、お前の存在を忘れる位の、尾行をしてくれ。

井口 頑張ります。

栗山 うん。

井口 それじゃあ、お先失礼します。

栗山 はい、お疲れ。

井口、退場

栗山 マジか。

携帯着信

栗山 もしもし。
マジで。
何でだ。とりあえず俺の方について言ったのに。
フックスで雇いたの。
まあ、分かった。
とりあえず、すぐ戻るから。
わかった。

携帯での会話終了

栗山 何なんだよ、今日は。

栗山、退場

暗転

井口、板付き。隠れるように立っている

照明、舞台全体

栗山、登場

何気なく歩くが、すぐに井口を確認

栗山 そっか。
忘れてた。

栗山、井口を気にせず歩く

井口、尾行する

しばらく歩いてベンチ方向へ

ベンチ周辺をオフィスとする

栗山がオフィスに入ったところで、井口は舞台の逆側で待機

栗山 おはよう。(会社の人たちに挨拶)

栗山、ベンチに座る

栗山 ありがとう。(誰かがコーヒーを持ってきた)
梨田。(社員を呼ぶ)
昨日はお疲れ。
その後、何かあった。
そう。

で、指摘の件は。(書類を受け取る)
わかった。ありがとう。

栗山、電話をする

栗山　　もしもし、栗山興業の栗山です。
お世話になっております。
工藤課長、お願いしたいんですが。
：
あ、もしもし、課長。
フックスいただきました。
どうのことですか。
今更じやないですか。ちよつとこつちも困惑してるというか。
突然過ぎて。
何ですか。
住民意見のところは、修正しますよ。
なんだったら、明日にでも修正案という形で、いやいや、ちよつと待つてくださいよ。
課長。課長。

電話を切られる

栗山の電話中、井口は自分の携帯を弄っている

14

栗山　　：
どうのことだよ。
上から何かあったのか。
：
とりあえず行つてみるわ。
梨田さ、一応、修正案つて形で、進めといてくれる。
俺は課長のとこ行つて、何が起きてるのか聞いてみる。
よし、じゃあ、それで動こらう。

栗山、ベンチから立ち、歩き始める

井口、栗山を尾行

ある程度歩き、栗山、立ち止まる。井口も立ち止まる

栗山、反転して、井口と正対。びくつとする井口。

井口　　どうしました。

栗山　　いや。

井口　　迷惑掛けてないですよ。

栗山　　そらだな。

昨日よりは、自然になつてる。

俺に余裕がないからかもしれないけど、そんなに気になってない。

井口 :

栗山 :

井口 何ですか。

栗山 俺、どうだ。

井口 え。

栗山 どう見える。

井口 普通に。

栗山 普通に見えるか。

井口 はい。

栗山 余裕はあるか。

井口 俺ですか。

栗山 俺だよ。

お前は余裕あるだろ。

ただ尾行してるだけなんだから。

井口 どういうことですか。

栗山 どうだ。俺、余裕ありそうか。

井口 普通だと思います。

栗山 ありがとう。

それなら良い。

井口 よ、栗山社長。

栗山 そうするのは、余計だから。腹立つから。

よし。

栗山、退場

井口、栗山を見送る

井口、ベンチに座る

鞆から、PCを取り出し、ものすごいスピードでタイピング

PCと携帯を繋ぐ。なにやら送信して、携帯を外す。そして、また何かを打ち込む

栗山、入場

井口、気付かない

栗山 おい。

井口 っ?

井口、すつとPCを閉じる

栗山 何してんだよ。

井口 : 卒論を。
栗山 大学生じゃないだろ。
井口 暇だったんで、ソリティアを。
栗山 使えない課長か。
ちゃんと気張っとけよ。
井口 すみません。
栗山 ::
俺も自分から卒業したいよ。
井口 ::
栗山 ::
井口 何かあったんですか。
栗山 ::

栗山、井口の問いには答えず、携帯を取り出し、歩き出す
井口、慌ててPCを鞆に入れ、尾行する

栗山 もしもし、俺だ。
梨田に繋いで。
::
ああ、俺だ。
梨田、修正案、無しだ。
何言っても無駄だった。
何が起こったのか、さっぱりわからん。
とにかく、無理の一点張りで、取り付く島もない。
すまん、今日は俺、このまま帰るわ。
大丈夫。
なんとかなる。
うん。
そっちの方は、黙ってる。
それこそ、耳に入ったら、終わりだよ。
絶対に漏らすな。
なんとかなる。
::
すまん、とりあえず今日は、少し一人させてくれ。
大丈夫。

携帯での会話終了
しばらく歩く
歩きながら

井口 何かあったんですか。
栗山 どんな状況だよ。
井口 尾行中です。
栗山 尾行中に話しかけるって、どういうことだよ。
井口 まあ、そうですけど。
栗山 まあ、色々あるよ。
井口 はあ。
栗山 ∴
井口 ∴
栗山 まあ、知ってると思うけど、俺、社長たる。
井口 え、そうなんですか。
栗山 は。

栗山、振り返る。井口、何かに隠れる
栗山、歩き出す。井口、尾行する

栗山 栗山興業で、俺が栗山だから、そりや社長たる。
井口 ばか息子かよ。
栗山 俺が作った会社だよ。
そもそも、お前、さつき、「よ、社長」って言ってたがる。
井口 それはノリで。
栗山 本当に社長なんだよ。
井口 すごいですね。
栗山 自分で言うのもなんだけど、結構なやり手だと思うし、若くして、いろんなことやってみてるから、まあ、そりやあんなでる奴もいるだろうしな。
よく思っていない奴つてさ、酷いよな。
俺は頑張ってきただけだのにな。平気で足引つ張りやがるし、梯子外しやがる。
井口 ∴
栗山 ∴
井口 何かあったんですか。
栗山 色々だよ。
聞いてたと思うけど、俺、今日もう帰るから。
井口 そうなんですか。
栗山 こんな近い距離で尾行してんだから、聞いとけよ。
井口 考え事してたんで。
栗山 尾行に集中しろよ。
井口 すみません。
女のと二行くんですか。

栗山、振り返る。井口、隠れる

栗山 いねえよ。

井口 いやいや。

社長だったら、絶対に女いますよ。

栗山 いねえよ。

俺は、嫁と息子一途なんだよ。

井口 いや〜。

栗山 いや〜。じゃねえよ。

何を調べてたんだよ。

嫁と息子だけだよ。

井口 ∴

栗山 なんだよ、その顔は。

まあ、良いよ。尾行してれば分かるよ。

栗山、歩き出す。井口、尾行。

少し歩いて止まる

栗山 おい。

井口 ∴はい。

栗山 何かあれだ。∴いや、何でもない。

じゃあ、お疲れ。

井口 お疲れ様です。

栗山、退場

井口 ∴

井口、ベンチに座る

鞆からPCをとりだし、何かを打ち込む

退場

照明、暗転

照明、舞台全体

栗山、携帯で電話をしながら入場

栗山 どういうことだよ。

どつから漏れたんだよ。

昨日の今日の話だぞ。

おかしいだろ。

何が起きてんだよ。

とにかく、今から行くから。
とりあえず、分からないで良いから、何も言わない。
俺が行くまで黙ってる。

携帯での会話終了

栗山 なんだよ、急に。
何が起こつてんだよ。

栗山、退場

井口、入場

さわやかな表情で、空を見たり、軽く踊ったり

ベンチに座って、鞆からおにぎりを取り出し、食う。ペンションを取り出し、何か打ち込む

照明、暗転

照明、舞台全体

ベンチに井口が座っている

栗山、入場

井口 おはようございます。

栗山 ああ。お前か。

井口 昨日はすみませんでした。

寝坊しちゃって。

栗山 は。

井口 寝坊しちゃって、家来たら、もう会社に行ってたみたいで。

栗山 いや、昨日は俺も早く出たから。

井口 今日からは、また真面目に尾行するんで。

栗山、笑う

井口 どうしました。

栗山 いや。

お前、寝坊つてなんだよ。

真面目にやれ、真面目に。

井口 はい。

栗山 ありがとう。

井口 ∴

栗山 ちよつと、あれだ。

笑えたから。
井口 何かあったんですか。
栗山 ……色々な。
井口 浮気されたんですか。
栗山 してないって。
何で、お前は俺にそんな浮気させたいんだよ。
してないから。
……
それどこじゃねえよ。
井口 ……
栗山 ほら、真面目に尾行しろ。

栗山、歩き出す。井口、尾行する。

栗山、そのまま退場

井口、ベンチに座る

携帯で何かを送る

さわやかな表情で空を見上げる。喜びの奇声をあげる。

照明、オレンジ

井口、ベンチから立ち上がり、舞台ベンチの逆側に

栗山、疲れた様子で入場、ベンチに座る

栗山 ……
井口 ……
栗山 おい、その辺にいるんだろ。
喋らなくて良い。
姿も見せなくて良い。
ちよつとだけ一人にしてくれ。
一人で喋らせてくれ。
……
お前は見ててくれ。
聞いててくれ。
井口 ……
はい。
栗山 声出すなって。
井口 ……
栗山 何なんだよ。
何が起こつてんだよ。
俺が何したつてんだよ。

::

会社がさ、倒産したんだよ。

役所からだ、でっかい仕事があつたんだよ。

多少汚いことしてもしてたけど、まあ、どの会社でもやつてる程度のな、とにかく、ほぼ決まりかけてた、いや、確実に決まってた、でっかい仕事があつたんだよ。

その仕事の絡みで追加の融資受けて、増設とかして、社員も増やして

::

急に全部が駄目になった。

何が起こつたのかすらわからない。

突然、目の前から、砂の城のように、いろんなものが崩れていった。

何なんだよ。

何が起こつたんだよ。

::

聞ってるか。

井口 ::

栗山 喋って良いよ。

井口 聞いてます。

栗山 誰にも言うなよ。

井口 はい。

栗山 ::

俺どうだ。

井口 参ってる感じです。

栗山 そうだな。参ってる。

本当に参ってる。

でもさ、社員の前で、ここまで参っていると見せられないよな。出てると思っけど。

井口 俺だけが、見えますよ。

栗山 ::

携帯着信

栗山 もしもし、俺だ。

すまん、今日も帰れそうにない。

昨日も軽く話したけど、ちよつと大変なんだ。

とりあえず、もう少ししたら、ちゃんと話すから、お前たちは、実家に方に帰っててくれ。

え。

実家にいる。

何で。

え。

どういふことだよ。

知らないよ。

してないよ。
ちよつと待て。
本当に浮気なんてしてないつて。
会社が倒産して、今大変なんだよ。
いや、ちよつと待てつて。
おい、おい、おい。

携帯での会話終了

栗山 何だよ。
何なんだよ。
井口 どうしたんですか。
離婚するつて言われましたか。
栗山 ∴
井口 奥さんに、離婚するつて言われましたか。
栗山 何で知ってんだよ。
井口 ∴
栗山 お前、何で知ってんだよ。
お前、何かしたのか。
∴
井口 全部、お前が何かしたのか。
∴
栗山 ちよつとだけね。
お前誰なんだよ。
俺とお前は、何か関係があるのか。
井口 直接的には、関係はないですね。
栗山 ∴
井口 井口真理子つて知ってますか。
栗山 井口真理子。
知ってる。高校の同級生。
井口 はい。
私、真理子の兄です。
栗山 マリちゃんの兄貴。
井口 はい。
栗山 だからなんだよ。
俺、マリちゃんに、何もしてないぞ。
井口 はい。知ってます。
でも、あなた、真理子のこと好きでしたよね。
栗山 確かに、そんな時期もあった。
でも、付き合ってもないし。話だつて、ほぼしたくない。

井口 はい。知ってます。
でも、あなた、真理子のこと、ちらちら見てましたよ。

栗山 好きだったら、そういうことあるだろ。

井口 はい、そうですね。

栗山 確かに、マリちゃんのごことは好きだった。可愛かったし。
でも、彼氏がいたし、想っただけだ。何もない。

井口 だから、知ってるって。

栗山 ……
何なんだよ、お前。

井口 真理子ね、あなたが真理子のごことを、ちらちら見るの、とっても好きだったんだよ。
あなたが、私のことを見てくれる。つてことが、とっても好きだったんだよ。

栗山 だから何なんだよ。

井口 うらやましい。

栗山 ……

井口 うらやましい。
うらやましい。
うらやましい。
俺の方が真理子のごことを見てきたのに。
俺の方が真理子のごことを見てきたのに。
俺が誰より、真理子のごことを見てきたのに。

栗山 お前、何なんだよ。

井口 お前は真理子のごことが好きだった。
真理子もお前のことが好きだった。
でも、2人はすれ違い。
残念。

栗山 待てよ。
お前の、その歪んだ愛情は、何で俺に来るんだよ。
マリちゃんの彼氏で良いだろ。

井口 うるさい。
うるさい。うるさい。うるさい。
お前に俺の何がわかる。

栗山 ……

井口 誰よりも、真理子のごことを見てきたのに。
誰よりも、真理子のごことを大事にしてきたのに。
俺はね、真理子が幸せだったら、それで良いんだよ。
兄貴だから。
真理子の兄貴だから。
報われない愛情。可哀想な俺。
それで良かったんだよ。
見てるだけで。

でもね、真理子言ったんだよ。
私のことじつと見ないでつて。
お兄ちゃんが、私のこと見てるの、本当に気持ち悪いつて。
真理子、俺に言ったんだよ、本当に気持ち悪いつて。
良いんだよ。自分が変態なのは、分かっている。自覚してる。
でもね、真理子に言われたのはね、本当に傷ついたんだよ。
∴

栗山 お前が俺の聖なる真理子を狂わせたんだよ。
俺関係ないだろ。
井口 真理子は、お前が、ずっと好きだった。
お前の視線が、大好きだった。
お前に見られるのが快感だった。
栗山 知らねえよ。
井口 俺にはわかるんだよ。
言っただろ。
誰よりも、俺が真理子のことを見てきたつて。
真理子のごとは、全部分かっているんだよ。

栗山 ∴
井口 最初はさ、お前の目ん玉くりぬいて、俺のと交換しようと思つたんだよ。
で、お前のごとを尾けてただけど
お前つてさ、相変わらず、みんなに好かれてんのな。
お前の真剣な目に、みんなうっとりしてんのな。みんな信用してんのな。
だんだん腹立つて来てさ、
全部壊してやろうつて。
俺が真理子に付けられた、この心の傷を、お前にもつて。
お前にも俺の受けた傷をつけてやろうつて。

栗山 ∴
井口 急に色んなことが起きただろ。
全部、俺。
全部俺がやったの。
栗山 待てよ。
俺だけじゃないだろ。
社員も、嫁も、息子も、みんな傷ついているんだぞ。
お前のその逆恨みで、みんなが傷ついたんだぞ。

井口 見てたよ。
楽しかった。
快感だった。

栗山 本気か。

井口 お前が、ちよつとだけ俺に心を開いてくれてさ、俺のこと見てさ、俺、ちよつとだけぐつ
ときちやつたよ。

ああ、これかって。

でもね、俺は、俺の真理子の心にずっと残ってる、お前を許さない。

栗山 おい。

井口 ということで、俺さ、今日のことを、真理子に報告しなまや。

まあ、もう聞いてないんだよね。

栗山 どういうことだよ。

井口 じゃあね。

井口、携帯を取り出して、何か送る

井口、退場

栗山 おい。

栗山、携帯に着信。見る。

栗山 マリちゃん。

携帯を見て、吐き気をもよおす

音楽

照明、ゆっくりと暗転

栗山 井口。

どこだ。

どっかで見てるんだろ。

井口。

どこだ。

絶対にお前を許さない。

どっかで見てるんだろ。

井口。